



# はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

## 竜巻が通る場所ではどんなことが起こるのでしょうか？

家の屋根や窓ガラスなどいろいろな物が飛ばされます。人や自動車も飛ばされます。ときには信じられないようなことが起きることもあります。

皆さんは「竜巻」を見たことがあるでしょうか。今は誰でも簡単に動画を撮影して投稿することができる時代ですので、テレビやインターネットの動画で見たことがある人は多いと思います。しかし、実際に竜巻を見たことのある人は少ないのではないのでしょうか。それは、竜巻はめったに発生しないことに加え、発生したとしても狭い範囲で、しかも平均して10分程度の短い時間に終わる現象だからです。

九州では、昨年2019年9月22日に宮崎県延岡市で竜巻が発生し、電柱が折れたり、住宅の屋根が壊れたりしました。このときは少し離れたビルに設置された監視カメラが、がれきを巻き上げながら移動する黒い渦を撮影していました。延岡市では2006年にも竜巻が発生しており、列車が横転するなどの被害がありました。気象台ではアメダスやレーダー、気象衛星などで気象観測をしており観測技術も進歩していますが、残念ながらそれだけでは竜巻と判断することはできません。そのため、偶然目撃した人が撮影した写真や動画、被害の程度や証言などから竜巻だと判断するしかありません。また、被害の程度に影響する風の強さは、弱いもので秒速20メートル程度から強いものでは秒速100メートルを超えることもあり、風速計で観測するのは難しいため、気象台の職員が現地調査を実施して、建物や電柱など特定の指標が受けた被害の程度から風速を推定しています。

竜巻が通過すると、瞬間的に台風の風をも上回るとても強い風が吹き、気圧も急激に下がるため、信じられないようなことが起きることがあります。次のような報告や証言があります。

- 木材が厚さ13ミリの鉄板を貫通していた。
- 通りにあった車が、二階の高さまで浮き上がって落下した。
- 畑から大根が抜き取られて舞い上がった。
- 呼吸困難となり、寒気を感じるほど気温が急低下した。



このような現象は、北九州市出身の藤田哲也博士が分類した竜巻の強度分類のなかで「ミステリーがおこる」に相当するようです。とにかく竜巻に巻き込まれると、日常の世界とは違う世界になってしまうということが想像できます。

気象庁は、気象レーダーで竜巻の原因になると考えられる「回転する発達した積乱雲」を検知した場合などに、竜巻注意情報を発表しています。竜巻注意情報が発表されたら空のようすに注意しましょう。もし急に暗くなって黒い渦が近づいてくるのを目撃したら、まずは安全な場所に避難して、飛んでくるガラスやがれきから頭を守ることが大切です。家ではできるだけ奥まった場所にある窓のない部屋、あるいはクローゼットや風呂場の浴槽も有効な避難場所といえます。外で竜巻に遭遇し、近くに鉄筋コンクリートなどの頑丈な建物が無いときは、窪地のような場所でできるだけ体勢を低くして、飛んでくるものから頭や首を守るようにしましょう。

## ご意見をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台防災調査課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

Fax：092-725-3163

e-mail：fukuoka\_bousaichousa●met.kishou.go.jp

●マークは半角@に置き換えてください

次回の発行は10月の予定です。